

97歳かつては世界一

大分共備の内航バースから見えていた大煙突の二本の内の一本がこのほど取り壊され、景観が変わりました。かつては世界一の高さ（約168m・底部約12m 先端8m）コンクリート製で、1916年（大正5年）に銅製錬所のシンボルとして建設され今年で97歳、老朽化には勝てなかったようで、解体前すでに先端部が欠けていました。

この線が、解体開始前の高さです。隣の赤白煙突は高さ200m（1972年建設）



昨年11月1日から始まり、12月5日にはこの高さに。しかし、クレーンの高さも驚きの高さです・・・。



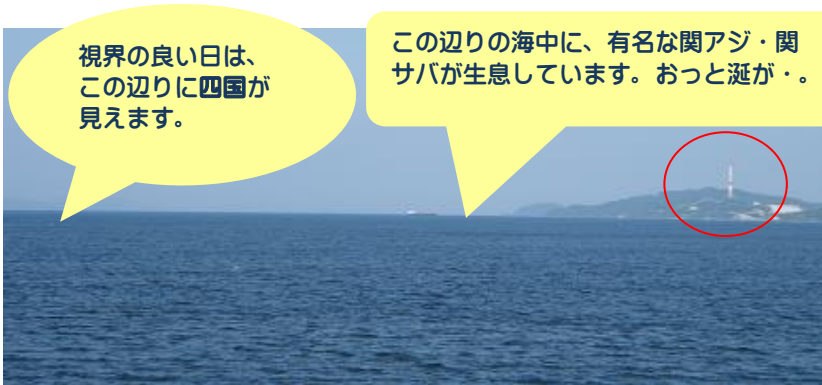
1月28日撮影
残り70m程度。
解体は、壊した破片を、煙突内部へ落とす方法だそうです。



2月25日撮影
解体は、6月末までの予定だそうです、すでにこの高さへ。



3月26日に見た時は
土台部分が僅かに見える



視界の良い日は、
この辺りに四国が
見えます。

この辺りの海中に、有名な関アジ・関
サバが生息しています。おっと涎が・。

煙突は世代交代へ・・・。



以前は、この位置に10
0年煙突がありました。

大分共備から煙突までは約8 k
m離れています。
共備から見るのと、近くで見る
のでは位置が逆に見えました。
歴史的一幕でした。

報告は梶原でした。